

氏名	古瀬 奈津子 FURUSE Natsuko
所属 職名 学位 専門分野	人間文化創成科学研究科文化科学系 教授 博士（文学）（1999東京大学）Ph.D. in Literature 日本史学（日本古代史、特に日本古代の政治制度、儀式、平安時代史）
URL	
E-mail	furuse.natsuko@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

天皇制
律令制
儀式
日唐比較史
日唐関係史

Japanese Imperial System
Code-Statute System
Rituals and Ceremonies
Comparative History of Japan and China
Historical Relationships between Japan and Ch

主要業績

- 古瀬奈津子「遣唐使は中国でなにをしていたのか？」 奈良国立博物館編『大遣唐使展』、pp.266-269 読売新聞社、2010年4月
- 古瀬奈津子「遣唐留学生と日本文化的形成」 王勇主編『東亜視域と遣隋唐使』、pp.65-73 光明日報出版社（中国）、2010年6月
- 古瀬奈津子「日唐宮繕令營造関係条文的検討」（台湾）、2011年1月 『新史料・新視点・新視角《天聖令論集》』下 pp.285-287 元照出版有限公司
- 古瀬奈津子「隋唐と日本外交」 北京大学歴史学系学術講座 2011年3月28日、於北京大学歴史学系

研究内容 / Research Pursuits

1. 日中交流史では、遣唐使に関する研究として、奈良国立博物館で開催された「大遣唐使展」図録に「遣唐使は中国でなにをしていたのか？」を執筆した。遣唐留学生が日本文化の形成に与えた影響について論じた「遣唐留学生と日本文化的形成」（『東亜視域と遣隋唐使』）が公表された。また、北京大学歴史学系から招聘されて、遣唐使を含む8世紀の東部ユーラシアの国際関係について、「隋唐と日本外交」の講演を学術講座として行った。2. 日唐比較研究としては、天聖令を使用した宮繕令營造関係条文的の日唐比較研究を行い、「日唐宮繕令營造関係条文的検討」を『新史料・新視点・新視角《天聖令論集》』下巻に発表した。3. 日本古代の書状に関する研究である「手紙」について発表した。

教育内容 / Educational Pursuits

1. 学部では、日本史講読で、史料の読み方を教示した。日本文化史概論では、安田次郎教員と合同で日本古代・中世史を都市に着目しながら概観した。歩いて学ぶ比較歴史では、東京周辺の遺跡・遺物・歴史的景観を見学することによって歴史認識を深めた。日本古代史演習では『続日本紀』延暦4年?6年条を講読し、桓武朝前期の政治・社会の変化について考察した。大学院では、『令集解』宮繕令と『小右記』寛仁3年条を講読し、律令制の基礎とその後の社会的変化について理解を深めた。卒論・修論・博論については発表会と個別指導を併用した。歴史現地調査では、平城京遷都1300年に因んで、平城京と飛鳥、京都を訪れた。2. 大学院教育改革支援プログラムを引き継いだ比較日本学教育研究センター主催の国際日本学シンポジウム「都市・建築・空間の国際日本学」および国際日本学コンソーシアム「日本」とはなにかを開催して、大学院教育の国際化に寄与した。

研究計画

1. 東アジアにおける日本という視点から、日本古代の天皇制研究を進め、日本社会の特質に迫る。2. 共同研究「日唐宋律令法の比較研究と新唐令拾遺」の編纂（科学研究費による）を継続し、天聖令による日唐令比較研究から、日唐古代社会の本質的差異と歴史的展開の共時性を明らかにする。3. 平成19年度科学研究費に採択された「文書様式からみた日唐古代官僚制の比較研究」を進展させ、日唐の上表文・奉表文を分析することにより、唐の皇帝と官人の関係と、日本の天皇と官人の関係との違いから、日中における集団と個人の間を考察する。4. 共同研究「身分感覚の比較的研究」により、従来とは別の見方で、日本古代における身分について考える。5. 日本学の観点から、海外の日本研究者と共同で、日本の社会と文化について、異なった視点からの学際研究を進める。

メッセージ

女子大というと閉ざされたイメージがあるかもしれませんが、お茶の水女子大学の場合それは当てはまりません。サークルだけではなく、ゼミや勉強会を通じて他大学との交流もあります。他大学の単位を取得する制度もあります。お茶大の中だけに閉じこもらずに、積極的に外の世界とのつながりをもつようにしましょう。ただし、国立女子大学の意義もまたあると思います。現代社会においては、まだ就職や、結婚をし子どもをもった後に仕事を続けようとした場合などに、男女平等とは言えない部分があるのではないのでしょうか。子どもの出生率が下がったままなのは、こうしたことに原因があるのではないのでしょうか。本当の意味において男女がそれぞれの特性をいかして生きていける社会を実現するために、国立女子大学の意義はまだ大きいと言わざるを得ないと思います。